

前期（第 5 期）の活動報告の冒頭では以下のように述べられている。

「コロナ禍が 5 類に移行し一定の落ち着きを見せるなか、未曾有の物価高と経済の低迷は私たち市民の生活に大きな影響を与えている」

一年を経て上記の状況は改善されるどころか悪化の一途を辿り、政治的混乱や排外主義、誤った自己責任論の台頭は子どもたちをはじめ社会的弱者を孤立させより困難な状況においてやっていることは子ども食堂やフードバンク等の活動の中で日々実感させられているところである。

もとより経済格差やそれに伴う教育や体験の格差解消は政治が解決していかなければならない問題であるが、一方で我々民間の地域での日常的なつながりづくりはこのような時代だからこそその重要度は増しておりさらなる拡大と深化が求められている。

私たち with us は設立以来「地域から取りこぼされる子どもをひとりでも多く減らしていく」ことをミッションに子ども食堂などの居場所作りとその継続支援を行ってきたが、これに加えてどのような環境にいる子どもたちであってもすべての子どもたちが本来持っている「こどもの権利」を護り、すべての子どもたちが自分らしく生きていける松戸市を作っていくことをそのミッションとして掲げこの 1 年間活動して来た。

第 6 期を振り返るにあたり with us はこのミッションの実現に向けて子どもの権利を護り「だれもが自分らしく生きられる街づくり」をさらに推進していくことをあらためて確認したい」

【非営利活動に係る事業】

1. 子どもの居場所の立ち上げ及び居場所運営者に対する運営基盤強化支援事業

当法人がその設立の契機となった「松戸市子どもの未来応援基金」を原資とする

「子ども 食堂新規 ・運営補助金」の活用により、2025 年 6 月現在 55 食堂（松戸市 HP による）となり「45 の小学校区にひとつ以上の子ども食堂」という当初の目的は数値的には達成した事になった

①with us 独自の「子ども食堂スタートアッププログラム」による立上げ支援はゼロであったが立上げ相談は下記の 4 件があった

五香松飛台子ども食堂ラ・サンテ（五香西）

こすもすワクワク食堂（新松戸）

マンナこども食堂（本町）

小根本みんなの Bettaku ごはん（小根本）

②しかし量的拡大の意味は評価しつつも中には開催が不定期であったり弁当の配布のみという私たちが目指す「居場所」とは異なる活動の団体もあり、数値目標の達成から質的向上を目指す時期に来ていると考える。

特に安全・安心な居場所を実現していくために子どもの人権やセーフガーディングを学ぶ機会をもっと提供していかなければならない

③子どもの体験の格差解消に向けた子ども食堂支援事業

子ども食堂などの活動の中で、自然体験や文化的体験など年齢に応じた経験の機会が少ない子どもたちと私たちは出会ってきた。

この事業は子ども食堂単体では難しいが with us が子ども食堂を支援することを通じて、そのような子どもたちに体験の機会を提供することを目的としている。

今年度もサマーキャンプとスノーキャンプ計2回を実施した。前年度と比べて参加者数、参加子ども食堂数ともに増加し、このプログラムの目的の理解が浸透したことを実感している。

今年度も引き続き「自然体験を通して子どもの主体的な参加」を促し子ども中心のキャンプ作りに挑戦した。

利用施設や日程、予算などの外的制約もありつつ、管理的プログラムをできるだけ排除し子どもたちが考え行動できる取り組みは試行錯誤しながらも進化してきている。

この取り組みは私たちが目指す「こどもまんなか」社会の実践につながるものであり、実践することによって私たちにとっても学び多い機会となっている。

また特筆すべきは子ども食堂や学習支援やキャンプの卒業生たちがユースリーダーとして参加してくれるようになったことである。

彼らは大人と子どもを繋ぎ、若者の意見を反映させていくうえでとても重要な役割を果たしてくれている。

このような「循環」は私たちが目指していることであり引き続き若者たちの参加を促していきたい。

一方で課題も多く見られるので、一つ一つ丁寧な議論を重ねつつ来年度以降の実践に繋げていきたい。

なお、いずれも NPO 法人千葉自然学校（理事長久保田康雄弊法人理事）の協力を得ている。

《サマーキャンプ》

2024 年 7 月 31 日、8 月 1 日に 1 泊 2 日、大房岬少年自然の家において実施。

市内 7 か所の子ども食堂から小中学生 33 名、ユーススタッフ 6 名参加。

昨年度できなかった海岸アドベンチャーも実現できた。また、特に見守りの必要な児童の参加があり、子ども食堂との事前の情報共有の重要性や子ども同士の視点と大人の視点の違いなど多くの学びを得ることができた

《スノーキャンプ》

2025 年 1 月 9 日～11 日の 2 泊 3 日、国立磐梯青年交流の家にて雪遊び等の体験を実施した。市内 7 か所の子ども食堂から小中学生 32 名ユーススタッフ 5 名参加。

前年と異なり約 2 m の積雪があり、そり遊びやスノートレッキングで非日常的な雪体験を提供した。

2. 子どもの居場所ネットワーク構築事業

市内では特筆すべき活動は行わなかったが、県事業「千葉県こども食堂サポートセンター（CCSC）」を弊法人代表の高橋が代表理事を務める NPO 法人千葉県子ども食堂連絡会が 6 月から受託し、弊法人理事や会員が CCSC 事務局として業務を推進するなど、県全体のネットワークづくりに貢献している

3. 子どもの居場所運営者に対する人材研修事業

スタッフ向けに「安心・安全な子どもの居場所づくり」をテーマに勉強会を開催した。

子ども食堂などが必ずしも子どもにとって安心安全な居場所になっていない現実を踏まえて、子どもの人権やセーフガーディングについてお互いに学び合う機会となった。

実施日時；2025 年 3 月 16 日

4. 子どもの居場所に関する普及啓発事業

1. 10 代の居場所モデル事業「with us 北松戸」前年度と引き続き週 5 日で開催

金曜日スタッフの佐藤さんが辞められたため新たに柴崎さんと原川さんが隔週交代でスタッフとして加わってくださるようになった。

年間延利用者：523 名（10 代の子ども 426 名、大人 97 名）昨年度 315 名

課題としては

①利用者が特定の中学生に偏ってきていること（このこと自体が問題なのではなく居場所としての意味は十分果たしているといえるが）

②食品の提供について

① については対象とした考え以前は利用があった高校生世代の利用を促す方策を考えたい

② についてはルールを設け、スタッフの皆さんのご協力で問題は解決しつつある

2. 代表理事による講演活動

2024 年

6 月 セーフガーディングワークショップ（船橋子ども食堂ネットワーク）

7 月 株式会社 & A 全国大会での寄付金授与式出席（神戸）

和洋女子大（保育学科の学生対象に保育園と地域連携について）

8 月 ちばの会シンポジウム「食でつながる居場所作り」コーディネーター

10 月 弘前大学（子ども食堂の活動とネットワークづくりについて）

10 月 千葉経済短大（コープみらい寄付講座）

市原市社会福祉協議会

11 月 千葉県こども食堂ネットワーク会議（活動報告とコーディネーター）

学生こども食堂連盟シンポジウム（獨協大学）

柏こそだてネットコcottシンポジウム（子ども食堂とこどもの権利）

千葉県生協連

千葉大学安藤ゼミ

12月 市原市こども食堂ネットワーク会議

2025 年

2月 食でつながるフェスタ コーディネーター

セーフガーディングワークショップ（福島）

3月 セーフガーディングワークショップ（市川こども食堂ネットワーク会議）

5. 子どもの居場所に関する調査・研究・提言事業

① 子ども若者自立支援モデル事業

昨期から採択されたパルシステム「伴走付給付型奨学金」で今期は前期からの継続の外語大生1名と新規の看護大学生1名の伴走をしている

② 「子どもの権利条例」制定に向けた活動

- ・ こどもにやさしいまち・まつど（CFC まつど）キャンペーン実行委員団体として4回の公開勉強会を開催
- ・ 市長選に伴い全候補者にこどもの権利擁護とこども基本条例制定についての質問状を提出し回答を公開

6. その他

① 松戸市子どもの自立支援事業「子どもスマイルプログラム（所管課：子ども部こども家庭センター）」を継続受託することになった。センターから提示された虐待懸念の2つ（3人）のケースを担当し継続中である。

② 諸活動と法人維持のため多くの助成金・補助金の申請・取得を行った（担当：原川理事・山崎理事）

7. 最後に

第6期を終えて当法人の活動も6年目に入っている。当初の居場所作りの中間支援団体の役割から、子どもの権利擁護や体験格差の解消に向けた取り組み、親の支援を得られない若者の自立支援、虐待防止、安全安心な居場所作りなどその幅を広げて来た。

しかし如何に活動の幅が広がり多様化しようとも、私たちの目指す社会は孤立を無くし子どもも大人も誰もが自分らしく生きられる社会である。

私たちは現場での実践を通してこの目標に取り組み、学び、それをまた現場に返すという循環を繰り返し成長する組織を目指していく。

その有効な方法の一つとしての子ども食堂や居場所作りである、いう原点を忘れずに今後の活動を推進していきたい